

令和 6 年度版『小学 書写 三年』年間学習指導計画・評価計画資料（案）

「支援」は、「B」に至らない児童に対する支援・援助の方法例。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評 価 規 準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 月 (2 時間)	2	表紙裏① ～ 2	なぜ毛筆を学習するの？ 毛筆の学習が始まるよ	○書写学習に興味をもち、 これからの学習に対する意 欲を高めることができる。	○教科書①のまんがを読ん で、毛筆を学習する意味につ いて話し合う。 ○教科書 1 ・ 2 ページの写真 を見て、2 年生までの硬筆の 学習と違うところを考え、気 づいたことを話し合う。 ○グループごとに発表する。	アイウ	B ：毛筆で学習する意味について話し あっている。 A ：毛筆で学習する意味について進ん で話し合っている。 支援 ：毛筆で学習したことは、硬筆学 習に生かすことを確認する。	B ：2 年生までの硬筆学習との違いや 毛筆を学習する意味について考えてい る。 A ：2 年生までの硬筆学習との違いや 毛筆を学習する意味についてよく考え ている。 支援 ：他教科や日常生活の文字を書く 場面で生かせることを確認する。 児童の気づきを促すために、デジタル 教科書の動画や毛筆の基準文字などを 見せて説明する。	B ：毛筆で学習する意味について知り、 これからの毛筆書写に関心をも ち、取り組もうとしている。 A ：毛筆で学習する意味について理解 し、これからの毛筆書写に積極的に取 組もうとしている。 支援 ：書写学習が生かせる場面で意識 的に声がけをする。
		3 ～ 5	目次 三年生で学習すること 学習の進め方	○1 年間の学習内容や学習 の進め方について知り、書 写学習に対する意欲をもつ ことができる。	○学習の進め方について知 る。	アイウ	B ：毛筆で学習する意味や学習の進め 方について理解している。 A ：毛筆で学習する意味や学習の進め 方について、よく理解している。 支援 ：前学年で学習した内容をふまえ ながら説明する。		B ：毛筆書写に関心をもち、取り組も うとしている。 A ：毛筆書写に積極的に取り組もうと している。 支援 ：教科書紙面を参照しながら、1 年間の学習内容と、学習したことを書 写以外の学習にも生かしていくことに ついて説明する。
		6 ～ 12	1 はじめの学習 ① 毛筆用具の名前と、 おき方やあつかい方 ② よいしせいと筆の持 ち方 ③ 筆の「ほ」のやわら かさ ④ 力の入れ方（筆圧） ⑤ あとかたづけ	○用具の扱い方や筆の持ち 方について知り、よい姿勢 や持ち方を意識して書くこ とができる。 ○筆の穂の柔らかさや筆圧 を意識して、いろいろな太 さの線を書くことができ る。	○用具の扱い方や筆の持ち方 について知り、よい姿勢や持 ち方を意識して書く。 ○筆の穂の柔らかさや筆圧を 意識して、いろいろな太さの 線を書く。 ○よい姿勢・よい持ち方で、 いろいろな線を書く。 ○途中で墨をつけずに、長い 線を書く。 ○細い線と太い線を書き、ど ちらの方が力が入っているか 考える。 ○筆圧について理解する。 ○力の入れ方を変えて書き、 筆圧によって、線の太さが変 わることに気づく。	アウ	B ：用具の扱い方、よい姿勢、筆の持 ち方を理解している。 用具の扱い方、よい姿勢、筆の持ち方 が身についている。 穂の柔らかさと筆圧について知ってい る。 筆圧に気をつけて、いろいろな太さの 線を書いている。 A ：用具の扱い方、よい姿勢、筆の持 ち方を、よく理解している。 用具の扱い方、よい姿勢、筆の持ち方 が、よく身についている。 穂の柔らかさと筆圧について、理解し ている。 筆圧を調整しながら、いろいろな太さ の線を書いている。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、 筆圧のかけ方について理解を促す。 筆の状態を確かめ、運筆しやすい状態 に整えるようにする。	B ：用具の扱い方、よい姿勢、筆の持 ち方、筆の扱い方について考えてい る。筆の穂の柔らかさや筆圧について 考えている。 A ：用具の扱い方、よい姿勢、筆の持 ち方、筆の扱い方の良しあしについて 考えている。 筆の穂の柔らかさや筆圧について、よ く考えている。 支援 ：教科書紙面を参照しながら、筆 圧を 3 段階でとらえて、力の入れ方と 太さを確かめられるようにする。	B ：用具を丁寧に取り扱い扱っている。 よい姿勢、筆の持ち方を身につけよう としている。 他の書写場面でも、よい姿勢、筆の持 ち方で書こうとする意識をもってい る。 筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して、 いろいろな線を書く活動に取り組もう としている。 他の書写場面でも、筆の穂の柔らかさ や筆圧に気をつけて書こうとする意識 をもっている。 A ：用具を適切に取り扱っている。 よい姿勢、筆の持ち方を、積極的に身 につけようとしている。 常により姿勢、筆の持ち方で書こうと する意識をもっている。 筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して、 いろいろな線を書く活動に、積極的に 取り組もうとしている。 常に筆の穂の柔らかさや筆圧に気をつ けて書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領 の内容	評 価 規 準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5月 (2～3時間)	2～3	13～15	2「横画」の筆使い 『二』	○「横画」の筆使い(始筆・送筆・終筆)について理解することができる。 ○「横画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○「横画」の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『二』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、気をつけることを見つける。 ○教科書の「たしかめよう」の例示から、「始筆」「送筆」「終筆」の穂先の向きと筆圧を理解する。 ○穂先の向きや穂先の通り道、筆圧に気をつけて練習する。 ○『二』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから「横画」のある漢字を探して硬筆で書く。	アウ	B ：「横画」の筆使いについて理解している。 「横画」の筆使いに気をつけて書いている。 A ：「横画」の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。 「横画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の筆使いが視覚的に理解できるようにする。 始筆・送筆・終筆の動作を「とん」「すうっ」などの言葉で表し、教科書のイラストでイメージをもちながら理解できるようにする。	B ：「横画」の筆使いについて考えている。 A ：「横画」の筆使いの良しあしを考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	B ：「横画」の筆使いに気をつけて、正しく書こうとしている。 他の文字や硬筆でも「横画」に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：「横画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に「横画」に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拡大文字などを使って、「横画」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、「横画」に気をつけて書くよう呼びかける。
6・7月 (6時間)	2	16・17	3「たて画」の筆使い 『土』	○「たて画」の筆使い(始筆・送筆・終筆)について理解することができる。 ○「たて画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○「たて画」の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『土』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、気をつけることを見つける。 ○『始筆』『送筆』『終筆』の穂先の向きと通り道を理解する。 ○「たて画」の筆使いに気をつけて練習する。 ○『土』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから「たて画」のある漢字を探して硬筆で書く。	アウ	B ：「たて画」の筆使いについて理解している。 「たて画」の筆使いに気をつけて書いている。 A ：「たて画」の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。 「たて画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の筆使いが視覚的に理解できるようにする。 始筆・送筆・終筆の動作を「とん」「すうっ」などの言葉で表し、教科書のイラストでイメージをもちながら理解できるようにする。	B ：「たて画」の筆使いについて考えている。 A ：「たて画」の筆使いの良しあしを考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	B ：「たて画」の筆使いに気をつけて、正しく書こうとしている。 他の文字や硬筆でも、「たて画」に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：「たて画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に「たて画」に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拡大文字などを使って、「たて画」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、「たて画」に気をつけて書くよう呼びかける。
	適時	18	【知りたい 文字の世界】 筆について知ろう	○さまざまな筆があることを知り、筆について興味・関心を高めることができる。	○教科書を見て、筆の種類や特性、作り方について知る。 ○筆について興味をもったことを調べる。 ○調べたことを発表する。	アウ			B ：筆および筆で書くことに興味をもっている。 ふだんの授業においても、筆を大切に扱う意識をもっている。 A ：筆および筆で書くことに興味をもち、積極的に調べようとしている。 ふだんの授業においても、筆を大切に扱う意識をもち、実践している。 支援 ：筆の作り方や材料に関するクイズを作成するなどして、興味・関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領 の内容	評 価 規 準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	3	19～21	4「はらい」の筆使い 『大』	○左右の「はらい」の筆使いの違いを理解することができる。 ○左右の「はらい」に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○「はらい」の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『大』を硬筆や毛筆で試書する。試書と教材文字を比べて、気をつけることを見つける。 ○「左はらい」と「右はらい」の筆圧のかけ方を理解する。 ○「はらい」の筆使いに気をつけて、練習する。 ○『大』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから「はらい」のある漢字を探して硬筆で書く。	アウ	B ：左右の「はらい」の筆使いの違いについて理解している。 左右の「はらい」の筆使いに気をつけて書いている。 A ：左右の「はらい」の筆使いの違いについてよく理解し、筆圧について把握している。 左右の「はらい」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：力の入れ方（筆圧）について3段階で示して、理解できるようにする。 筆の入れ方を確かめるとともに、姿勢、執筆などの基礎・基本を確かめられるようにする。	B ：左右の「はらい」の筆使いについて考えている。 A ：左右の「はらい」の筆使いの良さしを考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道を確かめられるようにする。	B ：左右の「はらい」の筆使いに気をつけて、正しく書こうとしている。 A ：左右の「はらい」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に左右の「はらい」の書き方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拡大文字などを使って、「はらい」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、左右の「はらい」の書き方に気をつけて書くよう呼びかける。
		22	＜こう筆の学習＞ 「はらい」	○「はらい」の方向を理解することができる。 ○「はらい」の方向に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『人』『大』『木』を硬筆で書く。 ○毛筆で学習した筆圧や「はらい」の方向について確かめる。 ○「はらい」の方向の違いや筆圧に気をつけて、「はらい」のある漢字や言葉を書く。 ○めあてに沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから「はらい」のある漢字を探して書く。	ア	B ：左右の「はらい」の違いについて理解している。 左右の「はらい」の方向の違いに気をつけて書いている。 A ：左右の「はらい」の違いや、さまざまな長さの「はらい」について、よく理解している。 左右の「はらい」の方向の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字や分解文字などを使って、「はらい」の方向の違いが視覚的に理解できるようにする。 左右の「はらい」の違いを中心とした書写カードを確かめる。	B ：左右の「はらい」の方向の違いについて考えている。 A ：左右の「はらい」の方向の違いや、さまざまな長さの「はらい」について、よく考えている。 支援 ：それぞれの「はらい」の方向がどのように違うのか、具体的な言葉で説明できるようにする。	B ：左右の「はらい」の方向に気をつけて、正しく書こうとしている。 「はらい」を含む漢字や語句を書いている。 A ：左右の「はらい」の方向や、さまざまな長さの「はらい」に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 「はらい」を含むさまざまな漢字や語句を書いている。 支援 ：毛筆で学習した、左右の「はらい」の方向の違いについて再度確かめる。 学習した以外の文字でも、「はらい」の方向の違いに気をつけて書くよう呼びかける。
	1	23	【レッツ・トライ】 はがき一暑中みまい	○はがきの形式を理解し、文字の大きさや行の中心に気をつけて書くことができる。	○はがきの書き方と宛名の書き方を知る。 ○教科書のはがきの文面を試書する。 ○試書と教科書の書き方を比べて、自分のめあてを設定する。 ○自分のめあてに沿って、練習をする。 ○教科書のはがきの文面をまとめ書きする。	アイ	B ：文字の大きさや行の中心のそろえ方について理解している。 はがきの形式に従って、文字の大きさに気をつけて書いている。 A ：文字の大きさや行の中心のそろえ方について、よく理解している。 はがきの形式に従って、文字の大きさや行の中心に気をつけて書いている。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、はがきの形式について確かめている。 それぞれの行に中心線を入れるなど、行が曲がらずに書くことができるようにする。	B ：はがきの形式に従って、丁寧に書く方法について考えている。 A ：はがきの形式に従って、文字の大きさや行の中心を整えて書く方法について考えている。 支援 ：はがきの表書きについて、相手の名前を大きく書くのは、相手を敬う気持ちが表れていることを説明する。	B ：はがきの形式を理解し、丁寧に書こうとしている。 A ：はがきの形式を理解し、相手意識をもって丁寧に書こうとしている。 支援 ：実際のはがきの例を提示することで関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領 の内容	評 価 規 準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9月 (3～4時間)	2～3	24・25	5「おれ」と「はね」の筆使い『力』	○「おれ」と「はね」の筆使いについて理解することができる。 ○「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○「おれ」と「はね」の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『力』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、気をつけることを見つける。 ○「おれ」と「はね」の筆使いを理解する。 ○「おれ」と「はね」の方向と穂先の向きに気をつけて、練習する。 ○『力』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をする。 ○漢字表などから「おれ」と「はね」のある漢字を探して硬筆で書く。	アウ	B ：「おれ」と「はね」の筆使いを理解している。 「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書いている。 A ：「おれ」と「はね」の筆使いについてよく理解し、筆圧について把握している。 「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の筆使いが視覚的に理解できるようにする。 穂先の通り道を確認めるとともに、姿勢、執筆などの基礎・基本を確認められるようにする。	B ：「おれ」と「はね」の筆使いについて考えている。 A ：「おれ」と「はね」の筆使いの良さしをを考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道を確認められるようにする。	B ：「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書こうとしている。 他の文字や硬筆でも、「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に「おれ」と「はね」に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拡大文字などを使って、「おれ」と「はね」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書くよう呼びかける。
		26	＜こう筆の学習＞ 「おれ」と「はね」	○「おれ」と「はね」の方向を理解することができる。 ○「おれ」と「はね」の方向に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『母』『問』『山』『光』『守』『心』を硬筆で書く。 ○毛筆で学習した「おれ」と「はね」の方向の違いについて確かめる。 ○「おれ」と「はね」の方向に気をつけて、『号』『調』『植』『池』『予』『思』を硬筆で書く。 ○めあてに沿って、自己評価をする。 ○漢字表などから「おれ」と「はね」のある漢字を探して硬筆で書く。	ア	B ：「おれ」と「はね」の筆使いについて理解している。 「おれ」と「はね」の方向に気をつけて書いている。 A ：「おれ」と「はね」の筆使いについてよく理解し、筆圧について把握している。 「おれ」の方向の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。 「はね」の方向の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の筆使いが視覚的に理解できるようにする。 「おれ」「はね」の方向を中心とした書写カードを確認める。	B ：「おれ」と「はね」の方向について考えている。 A ：「おれ」の方向の違いについて考えている。 「はね」の方向の違いについて考えている。 支援 ：「おれ」の方向がどのように違うのか、具体的な言葉で説明できるようにする。 「はね」の方向がどのように違うのか、具体的な言葉で説明できるようにする。	B ：「おれ」と「はね」の方向に気をつけて書こうとしている。 他の文字でも「おれ」と「はね」の方向に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：「おれ」の方向の違いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 「はね」の方向の違いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に「おれ」と「はね」の方向に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：毛筆で学習した、「おれ」と「はね」の方向について再度確かめる。 学習した以外の文字でも、「おれ」と「はね」の方向に気をつけて書くよう呼びかける。
	1	27	【レッツ・トライ】 作品カードーてんらん会の作品カード	○横書きの文字の大きさや配列に気をつけて書くことができる。 ○他教科の学習のなかで、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意欲をもつことができる。	○教科書を参照して、展覧会の作品カードを書くときに気をつけることを知る。 ○横書きの書き方について理解する。 ○文字の大きさや配列に気をつけて練習する。 ○基準をもとに評価をする。 ○気づいたことを発表し合う。	アイ	B ：展覧会の作品カードの書き方について理解している。 文字の大きさや配置に気をつけて書いている。 A ：展覧会の作品カードの書き方について、よく理解している。 文字の大きさとや配置に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：教科書紙面で確かめ、展覧会の作品カードの書き方が理解できるようにする。 文字の外形を囲み、平仮名や片仮名が漢字より小さく書かれているか確かめられるようにする。	B ：展覧会の作品カードの書き方について考えている。 A ：展覧会の作品カードの書き方について、よく考えている。 支援 ：読みやすい学習成果物の例はどのような点が工夫されているか、具体的なポイントを指摘する。	B ：展覧会の作品カードの書き方に関心をもっている。 A ：他教科の学習においても、展覧会の作品カードの書き方や文字の大きさに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：読みやすい学習成果物の例を提示することで関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領 の内容	評 価 規 準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9・10月 (4～5 時間)		28・29	6 ひらがなの筆使い 『つり』	○平仮名の筆使いを理解することができる。 ○平仮名の筆使いに気をつけて書くことができる。 ○平仮名の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『つり』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、気をつけることを見つける。 ○平仮名の筆使いを理解する。 ○丸みのある柔らかい筆使いに気をつけて練習する。 ○『つり』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末の「ひらがな表」などから、字形に気をつける文字を探して書く。	アウ	B ：平仮名の筆使いについて理解している。 平仮名の筆使いに気をつけて書いている。 A ：平仮名の筆使いについてよく理解し、筆使いについて把握している。 丸みのある柔らかい筆使いで書いている。 支援 ：漢字の筆使いと比べることによって、平仮名の筆使いを理解できるようにする。 ゆっくりと書くことで、丸みができることを確かめられるようにする。	B ：平仮名の筆使いについて考えている。 A ：平仮名の筆使いの良しあしを考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道を確かめられるようにする。	B ：平仮名の筆使いに関心をもっている。 他の文字や硬筆でも、平仮名の書き方に気をつけて正しく書こうとする意識をもっている。 A ：平仮名の筆使いに関心をもち、積極的に書こうとしている。 常に平仮名の書き方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拡大文字などを使って、平仮名の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、平仮名の書き方に気をつけて書くよう呼びかける。
	3～4	30・31	＜こう筆の学習＞ 筆順と字形	○筆順のきまりを理解し、字形を整えて書くことができる。 ○筆順のきまりを、他の文字でもあてはめて書くことができる。	○『二』『川』『十』『小』『内』『申』を試書する。 ○筆順のきまりを確かめる。 ○『州』『仕』を例示し「なぜ筆順通りに書く必要があるのか」について話し合う。 ○『小』『内』『申』と同じきまりの文字を巻末漢字表から探す。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。	ア	B ：筆順の原則を理解している。 筆順の原則に従って、正しく書いている。 A ：文字の筆順の原則について、よく理解している。 筆順の原則に従って、字形を整えて書いている。 支援 ：教科書の脚注や巻末漢字表などを使って、正しい筆順について理解を促す。 今まで学習した筆順の原則を確かめられるようにする。	B ：筆順の原則について、他の文字にもあてはめて考えている。 A ：筆順の原則や字形について、他の文字にもあてはめて、よく考えている。 支援 ：教材文字のどの部分が筆順の原則にあたるのか説明することで、他の文字でも確かめられるようにする。	B ：筆順の原則に気をつけて書こうとしている。 他の文字でも、筆順の原則に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：筆順の原則に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に筆順の原則に気をつけて、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 支援 ：筆順を色分けした図版などを使って、筆順に原則があることに気づくようにはたらきかける。 学習した以外の文字でも、筆順に従って書くように意識づける。
	1	32	【レッツ・トライ】 ①原こう用紙―セーフティ教室の作文	○原稿用紙の書き方（行頭のとり方や、ます目の中の書く位置）を理解することができる。 ○文字の大きさや配列に気をつけて書くことができる。 ○他教科の学習のなかで、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意欲をもつことができる。	○教科書を参照して、原稿用紙の書き方を確かめる。 ○書き出しや句読点の位置に気をつけて練習する。 ○教材文と比べて自己評価をする。 ○気づいたことを発表し合う。	アイ	B ：原稿用紙の書き方について理解している。 文字の大きさと、ます目の中の書く位置に気をつけて書いている。 A ：原稿用紙の書き方について、よく理解している。 文字の大きさと、ます目の中の書く位置に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：教科書紙面で確かめ、原稿用紙の書き方が理解できるようにする。 文字の外形を囲み、平仮名や片仮名が漢字より小さく書かれているか確かめられるようにする。	B ：原稿用紙の書き方について考えている。 A ：原稿用紙の書き方について、よく考えている。 支援 ：一ますを四つにくぎり、句読点や拗音・濁音の書く位置について確かめられるようにする。 読みやすい学習成果物の例はどのような点が工夫されているか、具体的なポイントを指摘する。	B ：原稿用紙の書き方に気をつけて書こうとしている。 他教科の学習においても、原稿用紙の書き方や文字の大きさに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：原稿用紙の書き方に気をつけて、積極的に書こうとしている。 支援 ：国語の学習などで原稿用紙に書いた文字を、教科書の書き方と比べてみるようにする。 読みやすい学習成果物の例を提示することで関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領 の内容	評 価 規 準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
10・11月 (4～5時間)	1	33～35	【レッツ・トライ】 ②手紙—お店見学のお礼 じょう	○手紙の形式を理解し、文字の大きさや行の中心に気をつけて書くことができる。	○手紙を書く時の手順を理解する。 ○手紙の形式を理解する。 ○教科書34ページを見て文字の大きさや行の中心はどうなっているか話し合う。 ○封筒の書き方を知る。 ○メモをもとに手紙を書いてみる。 ○学習したことができているか自己評価する。	アイ	B ：文字の大きさや行の中心のそろえ方について理解している。 手紙の形式に従って、文字の大きさに気をつけて書いている。 A ：文字の大きさや行の中心のそろえ方について、よく理解している。 手紙の形式に従って、文字の大きさと行の中心に気をつけて書いている。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめている。 便箋の罫線に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしないように、教科書を見ながら確かめられるようにする。	B ：手紙の形式に従って丁寧に書く方法について考えている。 A ：手紙の書式に従って、文字の大きさや行の中心を整えて書く方法について考えている。 支援 ：相手の名前を上の位置に書くことや、封筒の中央に大きく書くのは、相手を敬う気持ちが表れていることを説明する。	B ：手紙の形式を理解し、丁寧に書こうとしている。 A ：手紙の形式を理解し、相手意識をもって丁寧に書こうとしている。 支援 ：実際の手紙の例を提示することで関心を高めるようにする。
11月 (3～4時間)	3～4	36・37	7 「曲がり」と「おれ」の筆使い 『ビル』	○「曲がり」と「おれ」の筆使いの違いを理解することができる。 ○「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○「曲がり」と「おれ」の違いに気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『ビル』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、気をつけることを見つける。 ○「曲がり」と「おれ」の筆使いを理解する。 ○穂先の通る位置や筆圧に気をつけて、練習する。 ○『ビル』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○試書とまとめ書きを比べる。 ○めあてに沿って、自己評価をしてから相互評価をする。 ○巻末漢字表などから「曲がり」と「おれ」のある漢字を探して書く。	アウ	B ：「曲がり」と「おれ」の筆使いについて理解している。 「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて書いている。 A ：「曲がり」と「おれ」の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。 「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：分解文字などを使って、「曲がり」と「おれ」の字形の違いが視覚的に理解できるようにする。 「曲がり」では筆の軸を回さないように、「おれ」では一度筆を止めるように呼びかける。	B ：「曲がり」と「おれ」の筆使いについて考えている。 A ：「曲がり」と「おれ」の筆使いの違いについて、よく考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道を確かめられるようにする。	B ：「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて書こうとしている。 他の文字や硬筆でも、「曲がり」と「おれ」の書き方に気をつけて正しく書こうとする意識をもっている。 A ：「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に「曲がり」と「おれ」に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拡大文字などを使って、「曲がり」と「おれ」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、「曲がり」と「おれ」の書き方に気をつけて書くよう呼びかける。
		38	＜こう筆の学習＞ 文字の組み立て方	○いろいろな文字の組み立て方について理解することができる。 ○文字の組み立て方に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『坂』『音』『聞』『原』を硬筆で書く。 ○左右、上下、中と外の組み立て方の構成を知る。 ○基準に合わせて教材文字を書く。 ○試書と比べて自己評価する。	ア	B ：左右の幅の違い、上下の高さの違い、中と外の組み立て方について理解している。 左右・上下・中と外の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：左右の幅の違い、上下の高さの違い、中と外の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。 左右・上下・中と外の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方が視覚的に理解できるようにする。 左右の幅や上下の高さ、中と外の部分について意識できるようにする。	B ：左右の幅、上下の高さ、中と外の組み立て方について考えている。 A ：左右・上下・中と外の組み立て方の良しあしを考えている。 支援 ：毛筆文字などを使って、組み立て方や幅が確かめられるようにする。	B ：いろいろな文字の組み立て方に気をつけて書こうとしている。 他の文字でも左右・上下・中と外の組み立て方に気をつけて正しく書こうとする意識をもっている。 A ：いろいろな文字の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に左右・上下・中と外の組み立て方に気をつけて書こうとする意欲をもっている。 支援 ：幅や高さの違いに気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領 の内容	評 価 規 準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
12・1月 (4～5時間)	4～5	50～56	書きぞめ 『正月』 『友だち』 小筆で書こう	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことができる。 ○筆使いや文字の中心に気をつけて、字形を整えて書くことができる。	○書きぞめの由来を知る。 ○書きぞめの書く時の姿勢を知る。 ○小筆の持ち方を知る。 ○『正月』(または『友だち』)を試書する。 ○試書と教材文字を比べて、自分のめあてを設定する。 ○教科書40・41ページを参照しながら、基本点画の筆使いを確かめる。 ○基本点画に気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べて、自己評価する。	アウ	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方、筆使いについて理解している。 これまで学習した筆使いや文字の中心に気をつけて書いている。 A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方、筆使いについて、よく理解している。 これまで学習した筆使いや文字の中心に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：今まで学習した筆使いについて、点画の名称を確かめながら理解できるようにする。 書きぞめ用紙を縦半分に折り、中心を意識できるようにする。 外形を考えることで、文字の大きさについて確かめられるようにする。	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。 A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良しあしを考えている。 支援 ：姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って、確かめられるようにする。	B ：書きぞめに関心をもち、書こうとしている。 他の学習場面でも、よい姿勢や持ち方で、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 A ：書きぞめに関心をもち、積極的に書こうとしている。 支援 ：書きぞめの由来を説明し、書きぞめについて関心が高まるようにする。 他の学習場面でも、姿勢や持ち方、字形に気をつけて書くよう呼びかける。
2・3月 (5時間)	1	39	【レッツ・トライ】 文化 ― 俳句	○漢字と平仮名の大きさや、行の中心のそろえ方について理解することができる。 ○漢字と平仮名の大きさや行の中心に気をつけて、配列を整えて書くことができる。	○教科書39ページの三つの俳句の中から一つ選んで、視写する。 ○文字の大きさと行の中心のそろえ方を確かめる。 ○選んだ俳句の基準に合わせて練習する。 ○試書と比べて自己評価する。	アイ	B ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方について理解している。 漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて書いている。 A ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方について、よく理解している。 漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて、配列を整えて書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさが視覚的に確かめられるようにする。 中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	B ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方について考えている。 A ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方について、よく考えている。 支援 ：試書と教材文字とを比べて、自分の課題がわかるようにする。	B ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方に気をつけて書こうとしている。 書写の授業以外でも、漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：漢字と仮名の大きさに気をつけて、配列を整えて書こうとしている。 常に漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：漢字と仮名の大きさや行の中心に着目するよう呼びかける。 書写の授業以外でも、漢字や仮名の大きさや行の中心に気をつけて書くよう呼びかける。
		40・41	点画のしゅるい	○3年生で学習した基本点画について確かめることができる。	○これまで学習した「点画の種類」について、穂先の向きや通り道、筆圧のかけ方について確かめる。	アウ	B ：これまでに学習した「点画の種類」について理解している。 A ：これまでに学習した「点画の種類」について、よく理解している。 支援 ：教科書紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。		B ：3年生で学習した基本点画について確かめている。 他の文字でも、基本点画に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：3年生で学習した基本点画について、積極的に確かめている。 常に基本点画に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：これまで学習したページを振り返るように促す。 学習した以外の文字でも、基本点画に気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領 の内容	評 価 規 準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	4	42～45	8 学習のまとめ 『光』	○これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで、意欲をもって書くことができる。 ○自分の選んだめあてに気をつけて書くことができる。 ○これまで学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。	○『光』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、これまで学習したことの中から自分のめあてを選ぶ。 ○基本点画の書き方と穂先の向き、筆圧を確かめる。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○『光』を硬筆や毛筆でまとめ書きし、試書と比べて達成度を話し合う。 ○自分のめあてが達成できなかった場合は、既習事項を振り返る。 ○縦野線の用紙に『おにたのぼうし』の一部を硬筆で試書する。 ○中心に線を引いて自己批評する。 ○文字の大きさや配列に気をつけて、まとめ書きをする。 (硬筆)	アイウ	B ：これまで学習した筆使いや字形について理解している。 これまで学習したことを生かして、筆使いや字形に気をつけて書いている。 A ：これまで学習した筆使いや字形について、よく理解している。 これまで学習したことを生かして、筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 学習事項の要点や筆使いなどを具体的に示すようにする。	B ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んでいる。 A ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。 支援 ：『光』を試書することで、自分のめあてが見つけられるように支援する。	B ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで書こうとしている。 硬筆の学習でも、字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選び、進んで書こうとしている。 常に字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：1年間の学習事項や筆使いなどが確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、字形に気をつけて書くよう呼びかける。
		46	【知りたい 文字の世界】 「手書き文字」と「活字」	○手書き文字と活字の違いに気づき、文字に対する興味・関心を高めることができる。 ○日常生活のなかで見られる活字と手書き文字について、話し合うことができる。	○教室内の文字を探す。 ○手書き文字と活字を比べ、印象や効果について考える。 ○手書き文字と活字は、それぞれどのような目的や場に適しているのか話し合う。 ○話し合った結果を発表する。	アイ	B ：手書き文字と活字の特徴がわかる。 A ：手書き文字と活字の特徴について、よく理解している。 支援 ：教科書紙面を使いながら説明をすることで理解を促す。	B ：手書き文字と活字の違いについて話し合い、考えている。 A ：手書き文字と活字の違いについて話し合い、よく考えている。 支援 ：教科書の例、または用意しておいた拡大文字例等を使い、手書き文字と活字の違いに気づくようにする。	B ：手書き文字と活字の違いに気づき、文字に関する関心を高めている。 手書き文字と活字の特徴について、意欲的に調べようという意識をもっている。 A ：手書き文字と活字の違いに気づき、積極的に調べようとしている。 手書き文字と活字の特徴について意識し、使い分けようという意識をもっている。 支援 ：文字に関するクイズを作成するなどして、興味・関心を高めるようにする。 身のまわりにある手書き文字と活字の例を提示して、目的に応じた使い方に気づくようはたらきかける。
		47	【知っておこう】 ローマ字表	○ローマ字の書き方を知り、興味・関心をもつことができる。	○教科書のローマ字表を見て、字形を知る。	アイ	B ：ローマ字の字形について理解している。 A ：ローマ字の字形について、よく理解している。 支援 ：字形がわかりにくい文字について、教科書を見ながら確かめられるようにする。		B ：ローマ字の字形を確かめている。 常にローマ字の字形を確かめようとする意識をもっている。 A ：ローマ字の字形を、積極的に確かめている。 常にローマ字の字形を確かめて、丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援 ：まちがえやすい字形について、重点的に確かめられるように呼びかける。 普段の学習で、常に気をつけるよう意識づける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領 の内容	評 価 規 準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	適時	48・49	【書いて つたえ合おう】 メモを取ってまとめよう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教師の話聞いてメモを取る。 ○メモの書き方を理解する。 ○自分が取ったメモと、教科書のメモの書き方と比べてめあてを設定する。 ○模造紙にまとめる方法を理解する。 ○学習したことを生かして、模造紙にまとめる。 ○自己評価する。	アイ	B ：メモの書き方を理解している。大事なことを聞きのがさないようにメモを取っている。 読みやすく書くための方法について理解している。 メモをもとに伝えたいことをまとめている。 A ：メモの書き方を、よく理解している。大事なことをおさえてメモを取っている。 読みやすく書くための方法について、よく理解している。 支援 ：教科書を見ながら、効率的にメモを取るにはどこを省略できるか確かめる。 配列は整っているか、筆記具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。	B ：大事なことをおさえてメモを取る工夫について考えている。 読みやすく書くための方法を意識して、まとめたものを見直している。 A ：大事なことをおさえてメモを取る工夫について、よく考えている。 読みやすく書くための方法を意識して、まとめたものを見直したり工夫したりしている。 支援 ：自分のメモに書き込みをして、課題を見つけるようにする。 読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意欲をもっている。 支援 ：ふだんの生活のなかで、メモを取る場面について問いかける。 読みやすい学習成果物の例などを具体的に例示する。
		57～60	【漢字表】 三年生で学習する漢字 二年生で学習した漢字	○2年生で学習した字形の整え方、筆順などを確かめることができる。 ○3年生で学習した字形の整え方、筆順などを確かめることができる。 ○巻末漢字表を活用した漢字の仲間分けの活動を行ったり、筆順をまちがえやすい漢字について確かめたりすることができる。	○筆順のきまりを確かめる。 ○筆順に気をつける漢字を正しい筆順で書く。 ○文字の組み立て方の観点から、巻末漢字表の文字を分類し、印を書き込む。 ○友達と見せ合い、正しく書けたか相互評価する。	アイ	B ：同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて理解している。 同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けをしている。 A ：同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて、よく理解している。 同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字を正しく仲間分けしている。 支援 ：これまで学習した基本点画などの内容を振り返り、確かめられるようにする。どの文字のどの部分に着目して探すか、具体的に説明する。	B ：これまで学習した字形の整え方、筆順について考えている。 同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて考えている。 A ：これまで学習した字形の整え方、筆順について、よく考えている。 同じ点画をもつ漢字、同じ組み立て方をもつ漢字など、漢字の仲間分けについて判断している。 支援 ：教科書紙面を使って、正しい筆順や字形の整え方などが確かめられるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか、具体的に説明する。	B ：巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や、漢字の成り立ちについて、関心を高めている。 他の学習場面でも、筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や、漢字の成り立ちについて関心を高め、積極的に取り組もうとしている。 常に筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：巻末漢字表の使い方について確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、気をつけるよう意識づける。
		61	【ひらがな表】 【かたかな表】 【やってみよう】	○平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめることができる。	○「ひらがな表」「かたかな表」を見て、平仮名と片仮名の筆順や字形を確かめる。 ○字形がうまくとれない文字について、重点的に練習する。	アイ	B ：平仮名、片仮名の筆順や字形について理解している。 A ：平仮名、片仮名の筆順や字形について、よく理解している。 支援 ：ふだん、字形を整えにくい文字に関して、教科書を見ながら確かめることができるようにする。		B ：平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめている。 常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。 A ：平仮名、片仮名の筆順や字形を、積極的に確かめている。 常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめて、丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援 ：まちがえやすい筆順について、重点的に確かめられるように呼びかける。 書写の授業以外でも、常に気をつけるよう意識づける。